

酒々井町

郷土研究会会報

第92号

平成11年4月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

郷土研究会長就任にあたって

青木 朝次

そろそろ花の便りも聞かれる過ごしやすい季節となりました。皆様方には益々御健勝の御様子に何よりと存じます。

平成十一年一月二十四日の定期総会において、郷土研究会の会長に推され非力非才の身ですが会のため此の大役をお受けすることにいたしました。何卒絶大なる御支援いただけますようお願い申し上げます。前会長の会田さんにおかれましては会長職十二年の永い間本当にご苦勞様でした。今後とも顧問として会のために御助力を賜りますようお願い申し上げます。顧みますと郷土研究会設立以来二十二年を経過しました。先々代の相京会長さんがこの会を發会され『会の運営はガラス張り、何人も隠し

事はしない、何事も会議の上決定すること』の基本方針を理念に運営されてきました。この理念を守り会の益々の発展のため出精するつもりでございます。行事を重ねることに会員の皆様の知識も向上され、また新しく入会された方々の向学意欲も素晴らしく感動しております。

どうか機会ある毎に行事に参加していただき、皆様と親しく楽しくおつき合い出来ますよう運営委員一同の協力のもとに活動していきたいと念願しております。「郷土研究会に入っって良かった、もっと早く入れば良かった」などの言葉をお聞きする度に運営委員一同疲れも忘れ、次の行事に邁進しています。郷土研究会は、どなたでも酒々井町を知り、酒々井町に心を寄せようと思われの方々をお待ちしています。お知り合いに声をかけていただき会が益々発展できますことを願います。会長のご挨拶いたします。

郷土研究会長退任にあたって

会田 秀雄

会長退任にあたり一言ということて原稿依頼があり、さて何から書いてよいやらと戸惑った。就任から十二年の歳月は長いような短いような思い返せばやはり長いといえる。

私の在任中は、バブル景気・昭和から平成・バブル経済崩壊・非自民政權誕生・自社政權誕生・阪神大震災・地下鉄サリン事件があり総理大臣に於いては次々と目まぐるしく変わった時代でした。こうした中で郷土研の思い出もきりがなく楽しい事だけが脳裏を駆け巡ります。ただ郷土研発足以来の会員が年老いて退会されていくのが淋しい限りです。私も八十歳という節目が迫っている今日この頃は五尺の体に望まないのに足腰はじめあちらこちらと弱り始めています。しかし長期にわたり会員の皆様の思慮を受けながら無事職務を全うする事が出来ました事を深く感謝申し上げます。今後は顧問という事で、皆様と共に青木新会長のもと一致協力して益々発展するよう祈念申し上げます。会員の皆様のご健勝と御多幸をお祈りいたします。

千学集と妙見実録千集記

高橋 健一

「千学集」「妙見実録千集記」は、千葉の北斗山金剛授寺(現在の千葉神社)に伝えられてきた記録です。

いづれも原本は失われていますが、その写本が『改訂房総叢書第二巻』(改訂房総叢書刊行会刊)に「千学集抄」「妙見実録千集記」、『妙見信仰調査報告書二』(千葉市立郷土博物館刊)に「千学集抜粹」、『妙見信仰調査報告書三』に「妙見実録千集記」として活字化され利用しやすくなっています。

なお、両書には共通した記事と、そうでない記事を見ることができます。戦国時代に成立したと考えられる両書には、桓武平氏や千葉一族のこと、また妙見信仰のことが詳しく記載されていることから、江戸時代より引用されてきました。ここでは、「千学集抜粹」を例に、現在の酒々井に關係した記事を見てみましょう。佐倉千葉氏に關しては、輔胤、孝胤、勝胤、昌胤、利胤、親胤、胤富邦胤の歴代が、その子女の名とともに

にあげられています。

輔胤は岩橋殿、勝胤の五男公弁も岩橋殿と称され、勝胤の七男一印は吉祥寺の住持、勝胤の八男重阿弥は海隣寺の住持になったとあります。本佐倉城築城のこと、城下に市場と町が出来たこと、城下町が天正元年(一五七三)十二月十二日に炎上したこと、利胤・邦胤が佐倉妙見宮(本佐倉城跡奥ノ山)で元服した記事も見られます。

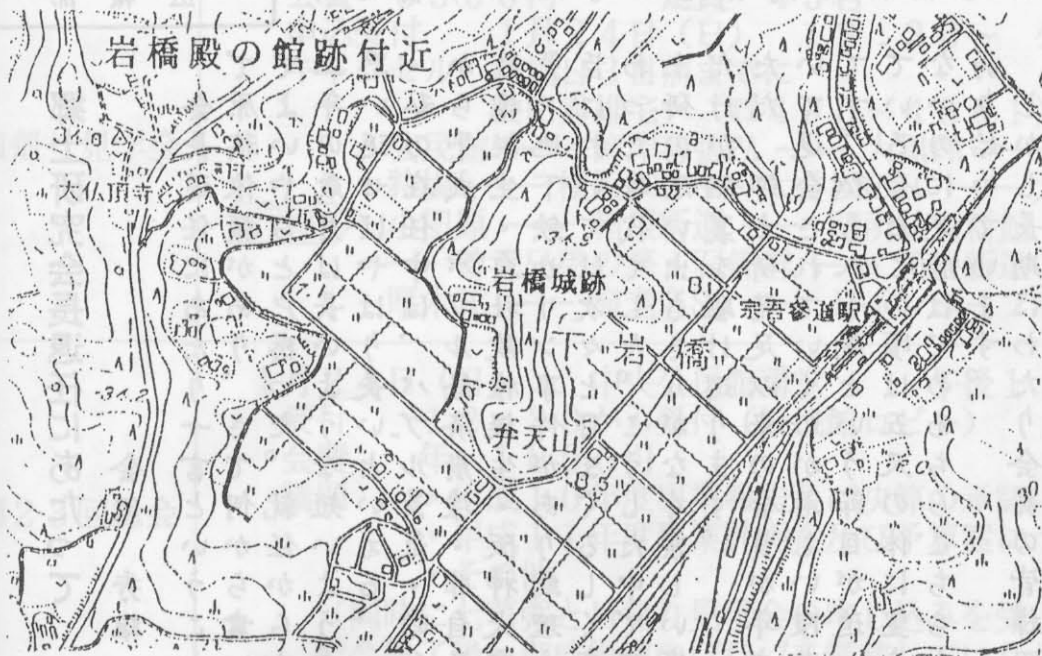
利胤は、大永三年(一五二三)十一月十五日に元服しました。この時には足利義明が小弓にいたため、また元龜二年十一月十五日の親胤元服は、小弓に里見義弘がいたため、つまり、いづれもが佐倉千葉氏との敵對關係にあつたため千葉妙見宮に参詣出来なかつたと記されています。

本佐倉城下に居住していた人物原大蔵丞胤安、小沢外記、麻生六郎左衛門、深山新六の名も登場します。

原胤安は屋形(佐倉千葉氏当主)に近臣として仕えていました。小沢外記と麻生六左衛門は、勝胤の九男として誕生し、金剛授寺十四世となつた覚胤が遷化した時に、身近きものとして覚胤の髪を剃っています。

深山新六は鹿島宿(現在の佐倉市本町)に居住していたものと思われ

ます。この他、史料として検討すべき記事もありますが、全体としては多くの事実を伝えているようです。



岩橋殿の館跡付近

「鎌倉方面初詣で」に参加して

茂木 蕃

平成十一年初の鎌倉二階堂方面の散策に参加したのは一月十七日の好天の一日でした。二十数名の皆様と御一緒し瑞泉寺を拝観し護良親王墓、鎌倉宮、荏柄天神、源頼朝の墓の順序で鎌倉時代の史跡を見学して参りました。

皆さんお元気でアップダウンの道程をこなされ一人の落伍も無く十四時頃鎌倉八幡宮で解散、それぞれ思いの経路で帰宅致しました。

鎌倉には私はもう三十年も前に一度八幡宮に参拝しただけなので歴史を回顧する一時を作っていただいたことは大変感激しております。

鎌倉宮は天皇が建てた唯一のお寺とはびっくり致しました。副会長さんの蘊蓄のある史跡の御説明には単なる史跡めぐりと異なり楽しく勉強になったと思います。

私の感想は一言で言うところ「初詣でアップダウンの緑り返し」

でした。

御成街道を歩く

中山 雅夫

雲一つ無い好天に恵まれ、総勢二十七名が参加。新会長・青木さんの説明を受けて出発。

街道を行くと稲荷神社がある。狐と二基の灯籠が両側にそれぞれ金網の中に納められているのが奇異な感じを受けた。街道を右手に入ると真言宗の不動山薬師寺福寿院がある。

千葉氏の七仏薬師の一体を安置し、本尊としたと言われている。四街道に至る六十六号線は、長沼の交差点に着くまで車の排気ガスを吸わざるを得ないのがチト辛かった。

イトーヨーカ堂で昼食。一時間の休憩で寛ぐ。戻って、御滝神社。はるか前方の谷間辺りに昔、滝があったそうなの。

かつて家康が東金に向かう途中、この滝の水で喉を潤したと言う伝承がある。この神社から更に南に進むと林の中に駒形十軒奥の院という馬頭観世音があった。堂の左側に百数枚の石絵馬が掲げられており、古いものは文久年間(一八六一〜六四)

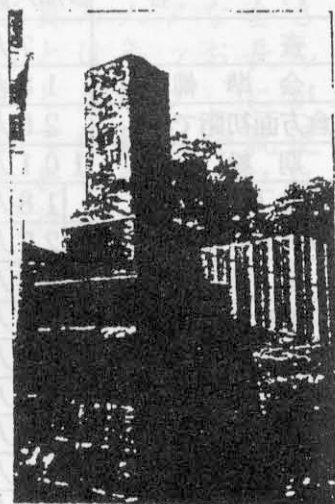
といわれている。

更に街道を直進すると、島田家の大きくて立派な長屋門があった。その両側にはおそらく侍と小者との間に介在する武家の召使である中間と馬が飼われていたという。

島田家を出ると左手に仏母山駒形親音堂があり、また参道の右手には、像高二、三メートルの阿弥陀如来座像があった。近づいてよく見ると胸から背中にかけて、六十ヶ村の講中の人々の名が細かく刻まれており興味をそそった。

時折ひやりと冷たい風を受けながら、それでも少しづつ上がる気温に助けられて、一人の事故者もなく、バスで四街道駅に着けたのは幸いだ

った。幹事の皆さんご苦勞様でした。勇退された会長の会田さん長い間ありがとうございました。



花島観音の標識塔 (千葉市花見川区天戸町)

酒々井町郷土研究会平成11年度役員・運営委員名簿

役名	氏名	住所	電話
顧問	沖田 善三郎		
"	田村 直子		
"	会田 秀雄		
会長	青木 朝次		
副会長	上田 悦子		
会計	福田 照子		
"	福田 芳江		
監事	福田 豊吉		
"	蒔 玉子		
運営委員	鶴岡 知子		
"	上野 和子		
"	寺本 恵美		
"	高木 正浩		
"	有田 政勝		
"	斉藤 日出子		
"	行武 政市		
"	執行 正勝		
"	佐藤 照子		
"	林 芳子		
"	犬島 正子		
"	久我かず子		
"	江沢 武夫		
"	古川 国雄		
"	富沢 勝		
"	木村 雍子		
"	相京 豊		
"	高橋 喜重		
"	桜井 徳三		

執行部及び運営委員の役割

執行部	顧問
会長 青木 朝次	沖田 善三郎
副会長 上田 悦子	田村 直子
会計 福田 照子	会田 秀雄
福田 芳江	
監事 福田 豊吉	
蒔 玉子	
	総務部
	久我 かず子

野草部	研修
斉藤 日出子	高橋 喜重
犬島 正子	桜井 徳三
	古川 国雄
	相京 豊
	富沢 勝
	江沢 武夫
	有田 政勝
	行武 政市
	高木 正浩
	執行 正勝
	寺本 恵美
	林 芳子

広報部
鶴岡 知子
佐藤 照子
上野 和子
木村 雍子

平成11年度事業計画(案) 酒々井町郷土研究会

行	事名	回	日												
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1	定期総会	1	○												
2	会報発行	4	○		○				○			○			
3	講座・ 学習会	郷土史講座	1										○		
		史談会	7		○	○		○	○	○		○		○	
		町内史跡めぐり	1					○							
4	研修 見学会	御成街道探訪	4		○				○	○			○		
		県外一泊コース	1					○							
		県内外日帰りコース	3			○					○			○	
5	野草 の会	名勝探訪	4	○					○			○		○	
		野草観察会	2				○						○		
	七草・山菜試食会	2		○	○										
6	生涯学習フェスティバル文化展	駢	(本年は実施無し)												
7	役員会・運営委員会	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

郷土研日誌

月日	内容	参加人員
1/11	監査	7人
/14	総会準備	18人
/17	鎌倉方面初詣で	26人
/24	定期総会	101人
/6	史談会(NO1)	18人
2/8	御成街道の探訪	27人
/9	研修部会	12人
/18	七草粥を食べる会の準備	7人
/19	同上	13人
/20	七草粥を食べる会	58人
/1	編集会議	5人
/6	運営委員会	19人
/6	史談会(NO2)	17人
3/26	日帰り見学会「南足柄」	35人
/27	会報発送	21人

旧暦の七草粥を食べる会

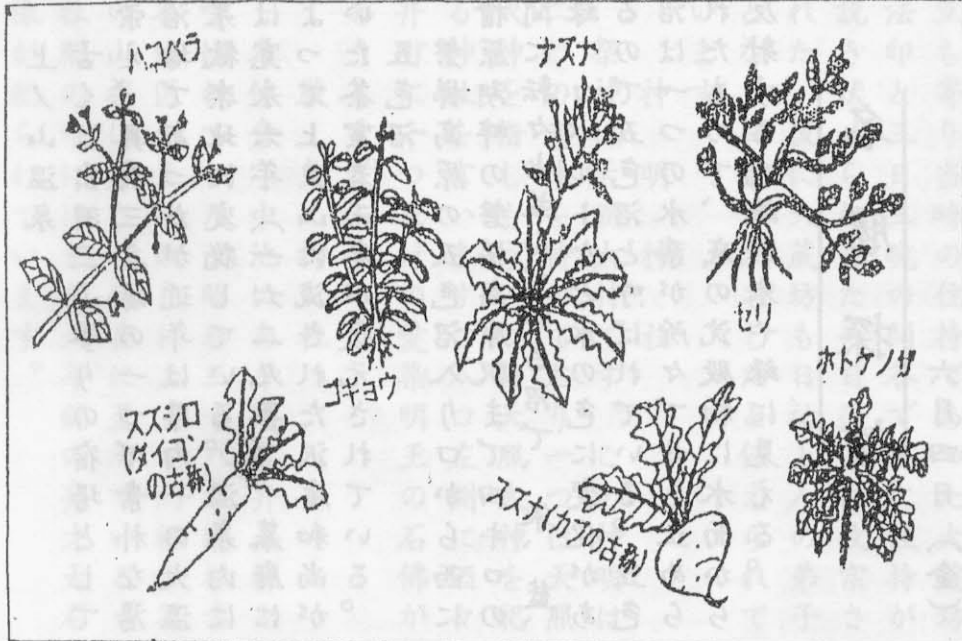
鈴木 秀子

前日は雪がちらつきましたが、当日はうって変わって暖かい春日和。七草粥を食べる会に参加するのは二度目です、昨年は、お客様でお手伝い出来ませんでした。郷土研の行事はよく他の行事と重なり、なかなか参加できませんでした。今年はお手伝いから参加させていたいただきました。

お粥を作りながら三十七年前五十九歳で他界した母と七草粥や小豆粥をよく食べた事を思い出しました。今年はお台所のお手伝いと言うより、お邪魔したのではないでしょう。先輩の方々に教えていただき主婦歴一年ですなんて、冗談を言いたいながら楽しい一時を過ごさせていただきました。

テーブルをセッティングして準備も整った頃、参加者がぼつぼつとお見えになり、約六十人が集まって、会長のご挨拶、七草の紹介・いわれ等を聞き、献立も多く、野草の香りがする全部手作りのお料理と七草粥

をととても美味しくいただきました。役員の皆様大変ご苦勞様でした。ありがたいございました。来年もまた是非参加したく思います。参加者は年配の方が多かったようですのでもっと幅広く、若い人達にも、どんどん参加してもらい、七草粥の味を知って欲しいと思いました。



会計報告

七草粥を食べる会	H11.2.20
収入	
会費	700円
参加人員	58名
総菜売りパック	300円
	$700 \times 58 + 300$
	$= 40,900$ 円
前回より繰り越し	17円
合計	40,917円
支出	39,699円
残金	1,218円

総会報告

平成十一年一月二十四日(日)午後一時三十分より中央公民館講堂で第二十三回定期総会が開催されました。当日は肌寒い小模様でしたが一〇一人の会員の皆様方が出席して下さいました。

平成十年度の行事報告及び決算報告と監査報告並びに平成十一年度の事業計画案及び予算案が審議され満場一致で承認されました。

今年役員・運営委員の変更があり、十二年間会長職にあった会田秀雄さんが退任され、青木朝次さんが新会長に就任されました。

なお、会田さんは顧問としてバックアップしていただきます。

六年間監事職を勤められた中村寛さんは勇退されました。また新運営委員として執行さん、犬島さんが紹介されました。

見学

案内



一泊見学会

山形米沢方面

五月十八日(火)〜十九日(水)

宿泊先 あづま屋

☎〇三三六七二二二二二

新緑の頃、山形方面へドライブ
しましょう。朝六時の少し早い出
発ですが遠くまで行きますので我
慢して下さい。

配車は五時四〇分です。

宝珠山立石寺

今から一〇〇年位前、慈覚大師

円仁の開山。国宝根本中堂は桃山時

代建築の殿堂で近くには蟬堂がある。

頂上の奥の院までは急ぎ足でも三

十〜四十分くらいかかる。百丈岩の

絶壁上に開山堂(慈覚大師の廟)や

五大堂、天狗岩の体内くぐりや釈迦

堂などがあり、いずれも岩肌にしが

みつくように建っていることから山

寺とも呼ばれている。紅葉の時期は

格別美しい。

上ノ山温泉

古くは出羽三山参りの宿場として
栄え、奥羽三名湯の一つで素朴な湯
治場であったが近年は県内一の大温
泉歓楽地に変貌している。温泉内
は寛永六年(一六二九年)、幕府に
よって上ノ山に流された沢庵和尚が
いた茶室春雨庵が復元されている。

五色沼

磐梯高原の五色沼入り口から西に
檜原湖畔の磐梯高原駅まで四キロの
間に転々と並んでいる沼で、朱、藍、
緑、コバルトなど水の色に変化があ
るので五色沼と呼ばれている。五色
沼は一つの水系が所々でせき止めら
れたもので、底の沈殿物に水面から
反射する光線が朱や緑に見える。

名勝探訪

六月四日(金)

石神井公園方面

雨天代替六月八日(火)

今回は、梅雨の合間をぬって石神

井公園へ行きます。西武池袋線に乗

り、石神井公園駅へ。ここから商店

街を通り抜けるとポイント池が見えて

きます。これが石神井池で、この辺

りは、大きなお屋敷がズラリと並ぶ

高級住宅街です。石神井池の隣には

御成街道

探訪(六)

六月二十一日(月)

雨天決行

四街道方面

二月第一火曜日から毎火曜日、朝
日新聞掲載の『のんびり歴史街道、
御成街道』すてにご覧になつておら
れる方もおありでしょう。

あたかも時を同じくして、私たち
が歩いている街道です。

駒形観音堂まで前回は歩きました。
なおJR四街道駅まで健脚を延ばし体
力を誇られた方も。

さて今回は、道の消えてしまつ
た所の自衛隊下志津駐屯地にて見学
と食事(隊員食)で腹ごしらえの後、
焼塚(一里塚)を通過して千城台のモ
ノレール駅まで歩き、都賀経由で酒
々井に戻ります。

町内史跡巡り

(教育委員会後援)

五月九日 (日)

雨天代替五月十六日 (日)

青葉目に染み入る五月空のもと、ご家族・お友達と、お誘い合わせてご参加下さい。今回は、本佐倉・上本佐倉方面を歩きます。

勝蔵院

佐倉の殿様であつた戸田山城守忠昌の奥方が重い病にかゝりあらゆる手を尽くしたが重くなるばかりだつた。ある夜夢に酒々井の不動に祈願すれば治るとのお告げがあり、東台にあつた不動堂を探しあて、その不動を現住所に移し祈願したところたちまちにして回復した。喜んだ殿様が建立した不動堂が現在の勝蔵院と言われているが、十四、五年前に古文書が発見され、建立者は忠昌の子である忠直であることがわかりました。

光徳院

今は見る影もない廃寺となつていますが珍しい蝶形如意輪観音の石像があります。

清光寺

この寺には家康の父である広忠公の歯骨が埋葬され家康も参拝したと伝えられています。

妙胤寺

創建当初は佐倉の大蛇村にあつた真言宗弥勒院と称していましたが、日蓮宗中山法華経寺三世日祐上人が立ち寄り当時の住持であつた大蔵坊法印と三日三晩の問答で遂に住持が説き伏せられたため日蓮宗に改宗された。後に大蔵坊も日祐上人の弟子となり日乗と改名したと伝えられています。

神明神社

祭神は天照大神です。この神明は二つの意味を持つており一つは天照大神を指しもう一つは天照大神を祀る神社を言います。入口左側に酒々井町に一つだけの愛染明王の石佛があります。

蔵島神社

本佐倉字中池にあり通称弁天様と呼ばれていたが昭和三十八年頃根古谷地区の土地改良によって向根古谷の山裾に移され現在に至っている。社殿の中には元禄六年銘の弁才天石像が祀られています。

祭神は、市杵島姫命です。

妙見神社

千葉氏の守護神として下総地方の各所があり、当町においては根古谷と猿樂場に二社あります。根古谷の妙見神社は本佐倉城の守護神であつたと伝えられています。祭神は本来、北斗七星と関係のある妙見菩薩でしたが、現在は香々背男命にかわつています。神仏分離の際に代わつたのでしよう。



















あとがき

さわやかな春の日差しが降りそそぎ、ほころぶ花の一つ一つに感動を覚える頃となりました。花といえは桜！酒々井の町にも見事な桜の見られる処があちこちとあり、尋ねてみるのもいいですね。

郷土研も新会長のもと 皆で手を携え楽しく学びあえるホットな会でありたいと願っています。二千年に向かつて歩みを進めて行きましょう。運営委員に執行正勝さん、犬島正子さんが加わりました。よろしくお願ひします。皆様の各種行事へのご参加をお待ちしています。

郷 土 研 行 事 案 内

平成11年4月～6月

	四 月	5 月	6 月
史 談 会	休 講	1日(土) 13:30 会議室 「千学集と妙見実録千集記」 講師：高橋 健一先生	5日(土) 13:30 会議室 「千学集と妙見実録千集記」 講師：高橋 健一先生
野草の会	山菜を食べる会 日時 4月16日(金) 12:00～ 場所 中央公民館講堂 申込受付 4月9日(金) 9:00 受付場所 中央公民館 定員 80名 会費 700円 キャンセル 青木宅() (お手伝い下さる方は調理室にお越し下さい)		野草観察会 日時 4月20日(火) 雨天代替 4月23日(金) 観察場所 佐倉城址公園一帯 集合場所 中央公民館 出発時間 9:30 解散時間 3:00(公民館) * 弁当、飲み物、敷物持参
一泊見学会	5月18日(火)～19日(水) 山形米沢方面 申込受付 4月9日(金) 9:00 (中央公民館ロビー) 定員 45名 (配車は5時40分) 会費 25000円 (宿泊先 あづま屋 ☎0236-72-2222) 5/18 酒々井(6:00)——湾岸幕張PA——葛西JTC——東北道—— 行 羽生PA——那須高原SA——福島飯坂IC——(昼食)—— 上杉家御廟処——上ノ山——山寺・立石寺——上ノ山温泉 程 5/19 上ノ山——フラワーパーク花夢——米沢——願成寺—— 喜多方(昼食)——五色沼——磐梯猪苗代IC——東北道—— ——葛西JCT——湾岸幕張PA——酒々井(19:30) (キャンセル 実施日5日前迄 青木宅())		
町内 史跡巡り ハイキング	5月9日(日) 本佐倉・上本佐倉(R296北側) 雨天代替5月16日 集合 中央公民館ロビー 9:00 (解散 3:00) 行 中央公民館——勝蔵院——光徳院(廃寺)(蝶形石佛)——上本佐倉旧道—— 程 清光寺(徳川広忠歯骨墓)——妙胤寺奥妙見社——隣保館鬼塚古墳(昼食) ——神明神社——浅間神社——巖島神社——妙見神社——ホタルの里—— 公民館(解散) *弁当・飲み物持参 約7km歩きます (コース変更あり)		
名勝探訪	6月4日(金) 石神井方面 雨天代替6月8日(火) 集合 京成酒々井集合8:20 (行程に一部変更あり) 行 京成酒々井——  ——日暮里——  ——池袋——  ——石神井公園 程  ——石神井池——  ——三宝寺池——  ——三宝寺(関東三十六不 動霊場第11番札所亀頂山三宝寺不動尊)——  ——石神井池——  石神井公園——  ——池袋——  ——上野——  ——京成酒々井		
御成街道 探訪	6月21日(月) 四街道方面 JR酒々井駅9:30集合(雨天決行) 申込受付 4月9日(金) 9:00 (中央公民館ロビー) 定員 30名 昼食代等 500円(自衛隊で食事します) 行 JR酒々井——  ——四街道駅——  ——自衛隊下志津駐屯地(史料館 程 見学と昼食)——  ——焼塚(一里塚)——  ——八幡神社——  鹿島神社——  ——春日神社——  ——千城台駅——モノレール——JR都賀		